

スーパーマーケット販売統計調査資料

2022年7月実績 速報版(パネル270)

6月実績 確報版(パネル270)

(2022年8月22日公表)

調査資料概要

【パネル270 社集計】

食品を中心に扱うスーパーマーケットを対象に同一企業を集計

【集計項目】

商品分類別・エリア別・保有店舗別集計

集計企業数、総店舗数、総売場面積、店舗平均月商、売場1㎡あたり売上高

【速報版・確報版】

速報版:前月販売実績を速報値として公表 確報版:速報値に精度の高い集計を加え確報値として公表

【全店・既存店】

全店:前年同月全営業店舗と当月全営業店舗の比較 既存店:前年同月、当月共に営業の店舗による比較

【商品分類】

総売上高	食品合計	生鮮三部門	青果	野菜類、果実類、花
			水産	魚介類、塩干物
			畜産	食肉類、肉加工品
		惣菜	惣菜、折詰料理、揚物、弁当、おにぎり、寿司、インスタアベーカー、ファーストフード	
		日配	豆腐、こんにゃく、納豆、練製品、佃煮、漬物、パン、卵、乳製品、生菓子、冷凍食品、アイスクリーム	
	一般食品	調味料、瓶詰詰、乾物、米、小麦粉、乾麺、嗜好品、菓子、酒類		
非食品	日用雑貨品、医薬・化粧品、家具インテリア、家電製品、婦人衣料、紳士衣料、文具、玩具			
その他	テナント売上高、タバコ・ギフト販売、その他取次業(DPE、クリーニング、宅配便、レンタル、チケット販売等)			

【地方分類】

北海道・東北地方	北海道、青森、岩手、秋田、宮城、山形、福島
関東地方	茨城、栃木、群馬、埼玉、千葉、東京、神奈川
中部地方	新潟、富山、石川、福井、山梨、長野、岐阜、静岡、愛知
近畿地方	三重、滋賀、奈良、和歌山、京都、大阪、兵庫
中国・四国地方	岡山、広島、鳥取、島根、山口、香川、徳島、愛媛、高知
九州地方・沖縄地方	福岡、佐賀、長崎、大分、熊本、宮崎、鹿児島、沖縄
北日本日本海側	北海道の日本海側とオホーツク海側(宗谷南部)、東北日本海側
太平洋側	北海道の太平洋側とオホーツク海側(網走・北見・紋別地方)、東北太平洋側
東日本日本海側	北陸地方
太平洋側	関東甲信、東海地方
西日本日本海側	近畿日本海側、山陰、九州北部地方
太平洋側	近畿太平洋側、山陽、四国、九州南部
沖縄・奄美	鹿児島県奄美地方、沖縄地方

一般社団法人 全国スーパーマーケット協会

一般社団法人 日本スーパーマーケット協会

オール日本スーパーマーケット協会

スーパーマーケット販売統計調査に関するお問い合わせ

tokei@super.or.jp

2022年8月22日

一般社団法人 全国スーパーマーケット協会
 一般社団法人 日本スーパーマーケット協会
 オール日本スーパーマーケット協会

スーパーマーケット販売統計調査
 2022年7月実績 速報版 (パネル270)

	全店売上高 (万円)	構成比	前年同月比 (全店)	前年同月比 (既存店)
総売上高	99,344,187	100.0%	101.3%	100.1%
食品合計	90,488,223	91.1%	101.3%	100.1%
生鮮3部門合計	32,752,758	33.0%	99.7%	98.5%
青果	13,250,650	13.3%	100.9%	99.6%
水産	8,399,500	8.5%	97.0%	95.7%
畜産	11,102,608	11.2%	100.6%	99.2%
惣菜	10,974,286	11.0%	104.6%	102.9%
日配	20,524,601	20.7%	102.7%	101.4%
一般食品	26,236,578	26.4%	101.0%	100.1%
非食品	6,742,876	6.8%	99.2%	98.5%
その他	2,113,130	2.1%	94.0%	94.4%

地方分類別集計

エリア	全店売上高 (万円)	集計対象企業数	前年同月比 (全店)	前年同月比 (既存店)
北海道・東北地方	13,574,160	43	103.0%	101.7%
関東地方	36,555,756	73	101.0%	99.6%
中部地方	12,117,214	53	102.3%	101.2%
近畿地方	21,832,118	44	99.1%	98.3%
中国・四国地方	10,050,925	34	102.2%	100.8%
九州・沖縄地方	5,214,014	23	106.8%	106.1%

保有店舗数別集計

保有店舗数	全店売上高 (万円)	集計対象企業数	前年同月比 (全店)	前年同月比 (既存店)
1~3店舗	530,324	43	96.0%	98.1%
4~10店舗	4,437,961	85	96.9%	96.9%
11~25店舗	8,759,363	51	101.3%	99.9%
26~50店舗	18,137,500	46	101.6%	100.1%
51店舗以上	67,479,038	45	101.5%	100.3%

集計企業数 (社)	270	既存店総売上高 (万円)	97,339,663
総店舗数 (店舗)	8,350	店舗平均月商 (万円)	11,898
総売場面積 (㎡)	13,818,712	売場1㎡あたり売上高 (万円)	7.2

※売上高は税抜金額

※売上高は千円以下、構成比・前年同月比は小数点第2位以下四捨五入

2022年8月22日

一般社団法人 全国スーパーマーケット協会
 一般社団法人 日本スーパーマーケット協会
 オール日本スーパーマーケット協会

スーパーマーケット販売統計調査
 2022年6月実績 確報版 (パネル270)

	全店売上高 (万円)	構成比	前年同月比 (全店)	前年同月比 (既存店)
総売上高	95,675,483	100.0%	98.3%	97.3%
食品合計	86,526,535	90.4%	98.0%	96.9%
生鮮3部門合計	32,371,528	33.8%	96.8%	95.6%
青果	13,219,925	13.8%	97.6%	96.5%
水産	8,046,059	8.4%	94.6%	93.4%
畜産	11,105,544	11.6%	97.5%	96.2%
惣菜	9,804,996	10.2%	101.6%	100.1%
日配	19,240,622	20.1%	98.7%	97.6%
一般食品	25,109,389	26.2%	97.5%	96.7%
非食品	7,031,499	7.3%	100.7%	101.0%
その他	2,117,501	2.2%	91.8%	92.9%

地方分類別集計

エリア	全店売上高 (万円)	集計対象企業数	前年同月比 (全店)	前年同月比 (既存店)
北海道・東北地方	12,734,460	43	99.4%	98.4%
関東地方	34,682,592	73	97.7%	96.5%
中部地方	12,430,818	53	99.5%	98.4%
近畿地方	21,437,320	44	96.0%	95.4%
中国・四国地方	9,487,874	34	98.9%	97.2%
九州・沖縄地方	4,902,418	23	105.4%	105.6%

保有店舗数別集計

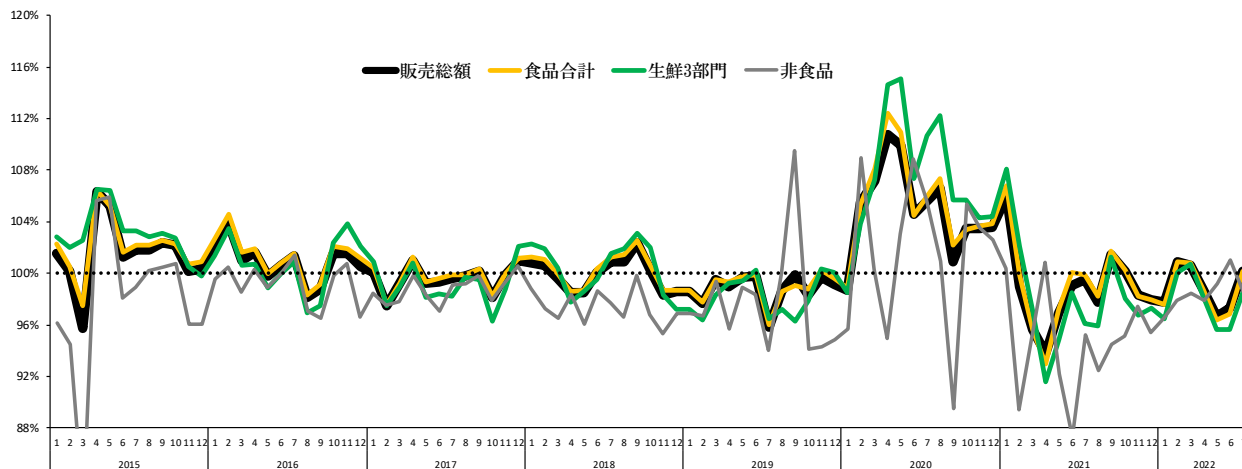
保有店舗数	全店売上高 (万円)	集計対象企業数	前年同月比 (全店)	前年同月比 (既存店)
1~3店舗	512,453	43	94.8%	95.8%
4~10店舗	4,292,542	85	95.0%	94.2%
11~25店舗	8,263,279	51	97.6%	96.6%
26~50店舗	17,182,556	46	98.8%	97.5%
51店舗以上	65,424,652	45	98.5%	97.5%
集計企業数 (社)	270	既存店総売上高 (万円)	93,474,408	
総店舗数 (店舗)	8,343	店舗平均月商 (万円)	11,468	
総売場面積 (㎡)	13,469,646	売場 1㎡あたり売上高 (万円)	7.1	

※売上高は税抜金額

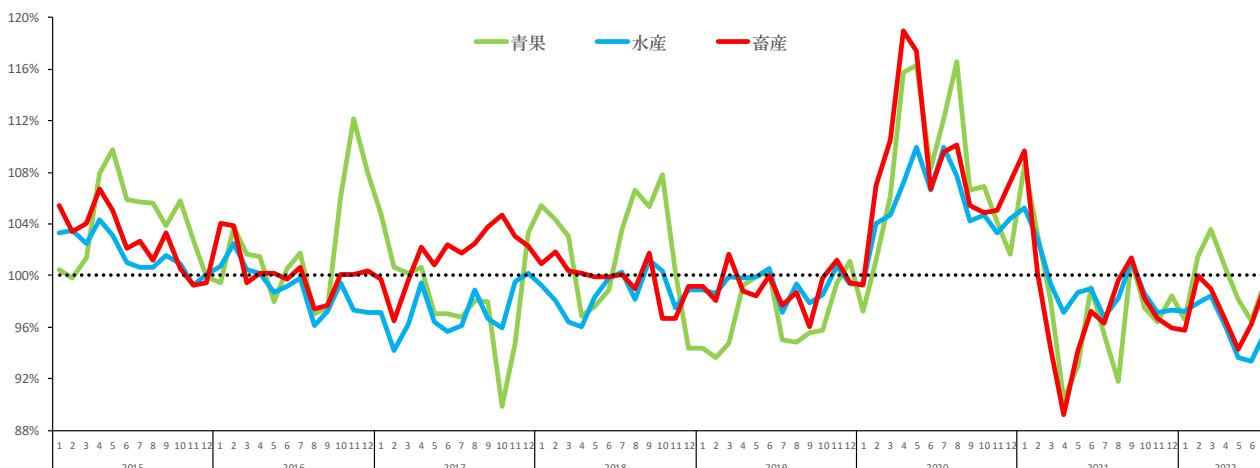
※売上高は千円以下、構成比・前年同月比は小数点第2位以下四捨五入

スーパーマーケット販売統計調査 前年同月比(既存店)推移 2015年1月～

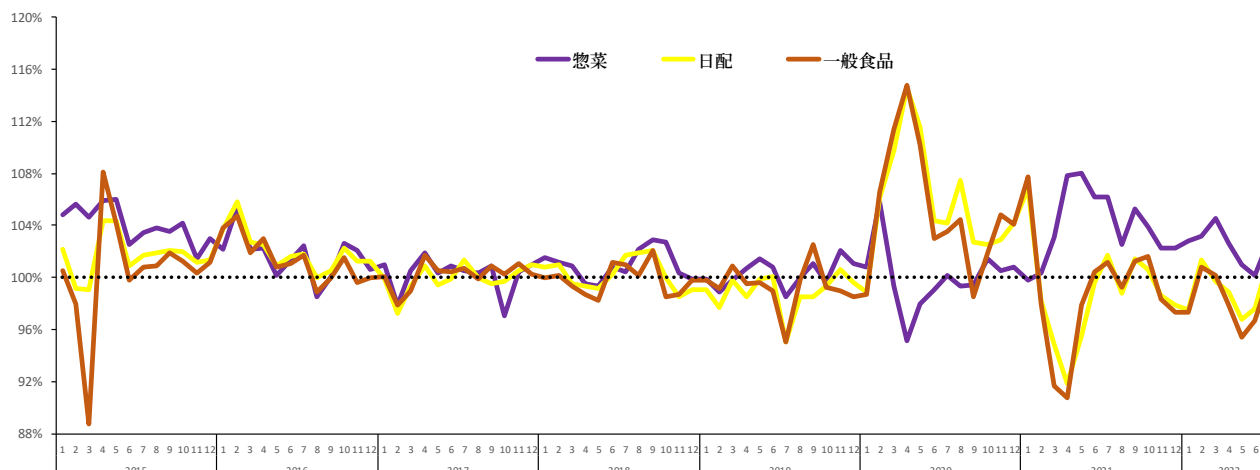
総売上高・食品合計・生鮮3部門・非食品



青果・水産・畜産



惣菜・日配・一般食品



※2022年7月実績は速報版

2022年7月エリア別気候状況

7月の気温：気温は全国的に高く、特に北日本ではかなり高かった

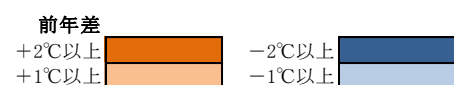
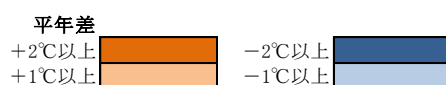
上旬：北・東・西日本でかなり高かった。

中旬：北日本で高かった。東・西日本では平年並だった。

下旬：東日本で高かった。北・西日本では平年並だった。□

2021年7月との比較：上旬は北・東日本でかなり高く、中旬以降は北日本で前年より低くなった

	平年との比較 (°C)						今年と前年との差 (°C)		
	2022年7月			2021年7月 (前年)			上旬	中旬	下旬
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬			
北日本 日本海側	3.5	1.5	0.6	1.0	3.5	3.2	2.5	-2.0	-2.6
太平洋側	2.9	1.3	1.4	0.2	3.2	2.8	2.7	-1.9	-1.4
東日本 日本海側	2.9	1.0	0.4	0.9	1.6	0.9	2.0	-0.6	-0.5
太平洋側	1.9	0.1	1.3	-0.3	0.8	0.8	2.2	-0.7	0.5
西日本 日本海側	2.5	0.4	0.5	1.2	0.7	0.6	1.3	-0.3	-0.1
太平洋側	1.5	0.2	0.4	0.8	-0.6	0.3	0.7	0.8	0.1



7月の日照時間：日照時間は北・東日本日本海側で多かった

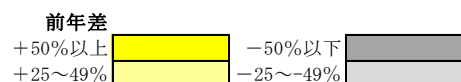
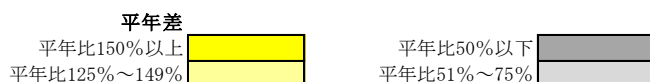
上旬：北・東日本日本海側でかなり多く、北・西日本太平洋側と西日本日本海側で多かった。

中旬：北・西日本日本海側と北・東・西日本太平洋側で少なかった。

下旬：北日本日本海側と北・東日本太平洋側で多かった。□

2021年7月との比較：上旬は全国的にかなり多く、中旬はかなり少なくなった

	日照時間 平年比 (%)						今年と前年との差 (%)		
	2022年7月			2021年7月 (前年)			上旬	中旬	下旬
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬			
北日本 日本海側	161	73	125	86	208	191	75	-135	-66
太平洋側	120	65	129	43	196	144	77	-131	-15
東日本 日本海側	178	82	111	57	193	147	121	-111	-36
太平洋側	120	66	135	33	151	135	87	-85	0
西日本 日本海側	147	68	98	48	129	139	99	-61	-41
太平洋側	110	71	106	53	104	135	57	-33	-29



7月の降水量：降水量は北日本日本海側でかなり少なかった一方、北・東・西日本太平洋側で多かった

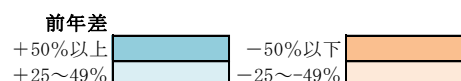
上旬：北日本日本海側でかなり少なく、北日本太平洋側と東・西日本日本海側で少なかった。一方、西日本太平洋側で多かった。

中旬：北・東日本太平洋側でかなり多く、北・東・西日本日本海側と西日本太平洋側で多かった。

下旬：北日本日本海側でかなり少なく、西日本日本海側で少なかった。一方、沖縄・奄美で多かった。□

2021年7月との比較：上旬は東日本、西日本日本海側でかなり少なく、中旬は西日本太平洋側を除いてかなり多くなった

	降水量 平年比 (%)						今年と前年との差 (%)		
	2022年7月			2021年7月 (前年)			上旬	中旬	下旬
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬			
北日本 日本海側	19	124	27	63	26	19	-44	98	8
太平洋側	65	190	93	108	14	53	-43	176	40
東日本 日本海側	69	139	77	170	43	64	-101	96	13
太平洋側	77	214	98	287	66	82	-210	148	16
西日本 日本海側	46	186	26	144	40	9	-98	146	17
太平洋側	127	152	70	124	173	14	3	-21	56



気象庁報道資料「7月の気候」を参考に事務局作成

スーパーマーケット景気動向調査

2022年8月調査結果（7月実績）
（2022年8月22日公表）

スーパーマーケット中核店舗を対象として経営動向や景気判断を調査し、月次でスーパーマーケット経営を取り巻く内外の環境変化を定量的に明らかにすることを目的としています。またスーパーマーケット販売統計調査における売上変動の要因やカテゴリー別好不調要因を補足する役割を果たすことも期待しています。

【経営動向調査】

1. 経営状況：「売上」「収益」「生鮮品仕入原価」「食品仕入原価」「販売価格」「客単価」「来客数」
スーパーマーケット中核店舗における各経営状況について

- ・前年同月と比較し「かなり増加」から「かなり減少」までの5段階で評価
- ・前年同月を100とした当月の値を調査 ※2014年4月実績より

2. カテゴリー動向：「青果」「水産」「畜産」「惣菜」「日配」「一般食品」「非食品」
スーパーマーケット中核店舗における各カテゴリーに販売動向について、

- ・前年同月と比較し「かなり好調」から「かなり不調」までの5段階で評価
- ・各カテゴリーの好不調要因についてのコメント

経営動向調査DI (Diffusion Index) の算出方法

回答構成比 (%) に以下の点数を乗じてDIを算出

かなり改善+0.5・やや改善+0.25・変わらない±0・やや悪化-0.25・かなり悪化-0.5

※すべて企業が「変わらない」と回答した場合、DIは「0」

【景況感調査】

1. 景況感：「景気状況」「消費者購買意欲」「店舗周辺の競合状況」「店舗周辺地域の景気」について、

- ・2～3ヵ月前と比較した現状について「かなり改善」から「かなり悪化」まで5段階で評価
- ・今後2～3ヵ月の見通しについて「かなり改善」から「かなり悪化」までの5段階で評価

景況感DI (Diffusion Index) の算出方法

回答構成比 (%) に以下の点数を乗じてDIを算出

かなり改善+1.0・やや改善+0.75・変わらない+0.5・やや悪化+0.25・かなり悪化+0

※すべて企業が「変わらない」と回答した場合、DIは「50」

一般社団法人 全国スーパーマーケット協会
一般社団法人 日本スーパーマーケット協会
オール日本スーパーマーケット協会

8月調査（7月実績）結果概況

景気判断DI 現状・見通しともに大幅改善

7月のスーパーマーケット中核店舗における景気判断DIの現状判断は、前月から +5.7 の 42.4、見通し判断は前月から +4.6 の 37.7 となり、現状判断、見通し判断とも前月から大幅な改善をみせた。

経営動向調査では、感染の再拡大による家庭内食事需要回復や、高い気温による夏物商材の好調、前年より祝日は減ったものの日曜日が一回多い曜日巡りにより、売上高 DI、収益 DI とともに前月から大きく上昇、マイナス幅を縮小した。生鮮品仕入原価 DI、原料価格等の高騰による食品仕入原価 DI により、販売価格 DI が引き続き高止まりするなか、食品需要の高まりにより、客単価 DI も上昇している。来客数 DI は、回復傾向がみられたものの、猛暑により日中の来店が減少した影響を受けている。

カテゴリー動向調査では、前年が緊急事態宣言下であり、自宅でのオリンピック・パラリンピック観戦需要があったため、比較すると大きなプラスとはなっていないが、すべてのカテゴリーDI で前月と比べて上昇した。家飲み需要の回復や、猛暑で調理を敬遠する傾向が追い風となった惣菜の DI は 12.2 と最もプラス幅が大きくなっている。（カテゴリー動向については最終ページに詳細を掲載）

前月、軒並み過去最低水準を記録した景況感調査も、すべての DI が前月より改善しており、消費者購買意欲現状判断 DI は、大幅な改善をみせた。（長期傾向については P11 参照）

ここ数か月、相次ぐ食品値上げと、外出・外食の再開気運により厳しい状況が続いていたが、7月は一転して感染の再拡大に伴う外食の抑制や食品備蓄の動きなど、内食需要の大幅な回復がみられた。外部環境により販売動向が大きな影響を受ける状況である。行動制限が行われない中で感染者数の増減による消費者心理の変化も一様ではなく、店舗の立地や地域によって食品需要にも違いが生じる可能性が高い。本来はきめ細かな対応が求められるところだが、店舗では陽性者や濃厚接触者が続発し、出勤できる従業員の不足が続いており、営業継続で精一杯という感もある。従業員への手厚いケアが求められよう。

景況感調査

現状判断

景気判断DI
当月：42.4 (+5.7)
前月：36.7

消費者購買意欲DI
当月：44.0 (+7.1)
前月：36.9

周辺地域 競合状況DI
当月：42.9 (+1.8)
前月：41.1

店舗周辺地域 景気判断DI
当月：43.5 (+3.6)
前月：39.9

見通し判断

景気判断DI
当月：37.7 (+4.6)
前月：33.1

消費者購買意欲DI
当月：40.5 (+5.9)
前月：34.6

周辺地域 競合状況DI
当月：39.6 (+0.1)
前月：39.5

店舗周辺地域 景気判断DI
当月：41.2 (+3.9)
前月：37.3

経営動向調査 経営状況

売上高DI
当月：-2.4 (+12.6)
前月：-15.0

客単価DI
当月：10.3 (+5.8)
前月：4.5

来客数DI
当月：-13.5 (+5.5)
前月：-19.0

収益DI
当月：-4.0 (+8.1)
前月：-12.1

販売価格DI
当月：19.6 (-0.2)
前月：19.8

生鮮品仕入原価DI
当月：19.9 (+2.0)
前月：17.9

食品仕入原価DI
当月：21.6 (+3.1)
前月：18.5

カテゴリー動向

青果DI
当月：-2.5 (+13.2)
前月：-15.7

水産DI
当月：-19.2 (+4.5)
前月：-23.7

畜産DI
当月：-3.6 (+11.5)
前月：-15.1

惣菜DI
当月：12.2 (+9.7)
前月：2.5

日配DI
当月：3.0 (+15.4)
前月：-12.4

一般食品DI
当月：-6.1 (+10.5)
前月：-16.6

非食品DI
当月：-3.5 (+8.3)
前月：-11.8

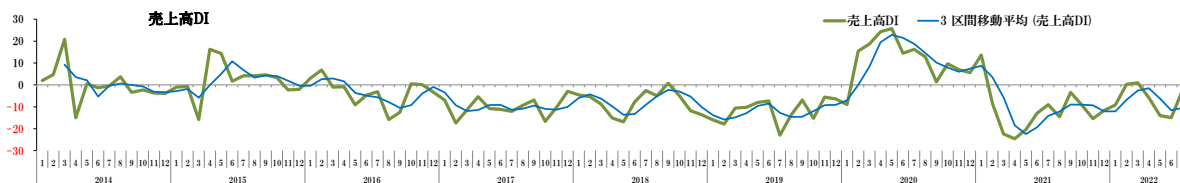
※DI 値は前年同月との比較 / () 内は前月 DI からの変化

結果詳細 I. 経営動向調査 (2014年1月～)

1. 売上高DI

前月より大幅に改善するも、4か月連続マイナス

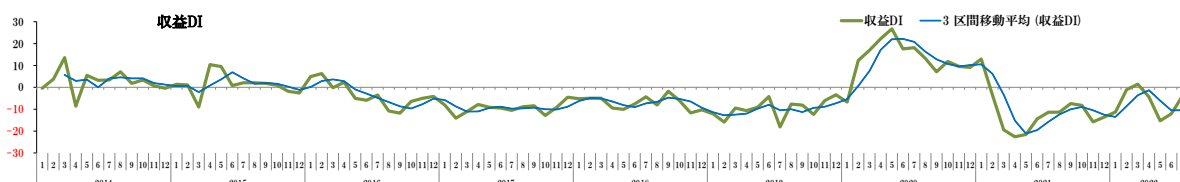
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
売上高 (前月)	15.4	45.1	25.8	11.5	2.2	-15.0
売上高 (当月)	7.1	29.7	31.6	29.0	2.6	-2.4



2. 収益DI

前月より大幅に改善するも、4か月連続マイナス

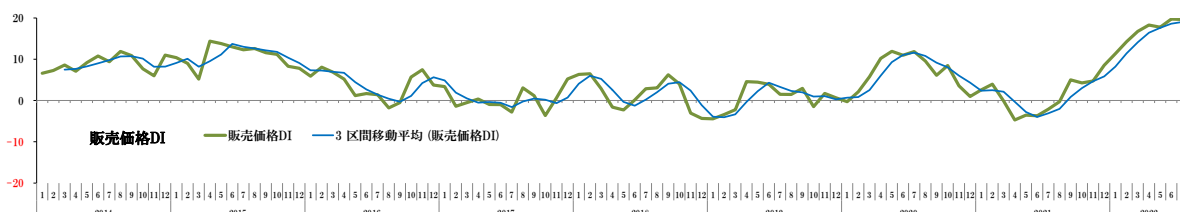
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
収益 (前月)	9.4	47.8	28.3	10.6	3.9	-12.1
収益 (当月)	9.9	30.5	29.8	25.2	4.6	-4.0



3. 販売価格DI

前月と変わらず、調査開始以来の最高水準で推移

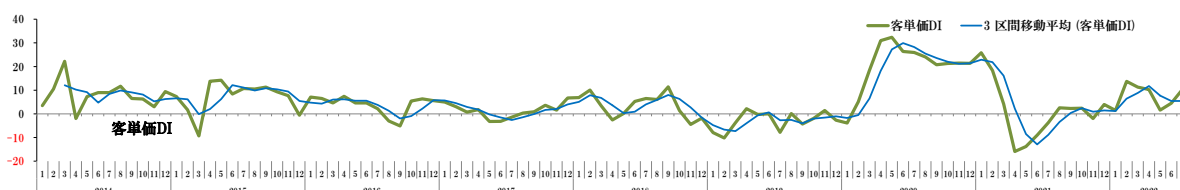
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
販売価格 (前月)	0.0	2.2	23.2	68.0	6.6	19.8
販売価格 (当月)	0.0	1.9	24.7	66.2	7.1	19.6



4. 客単価DI

前月よりプラス幅を拡大

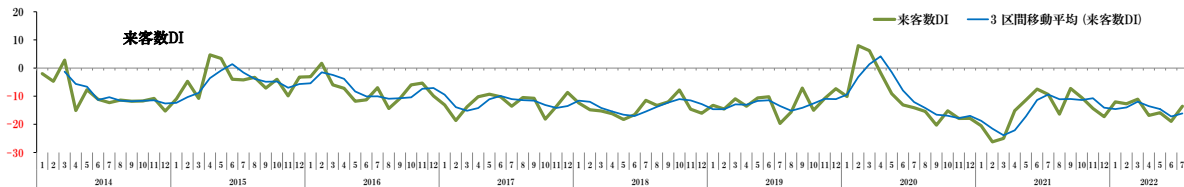
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
客単価 (前月)	1.1	21.3	38.8	36.1	2.7	4.5
客単価 (当月)	0.0	13.5	35.5	47.1	3.9	10.3



5. 来客数 DI

前月より改善するも、マイナス圏での推移が続く

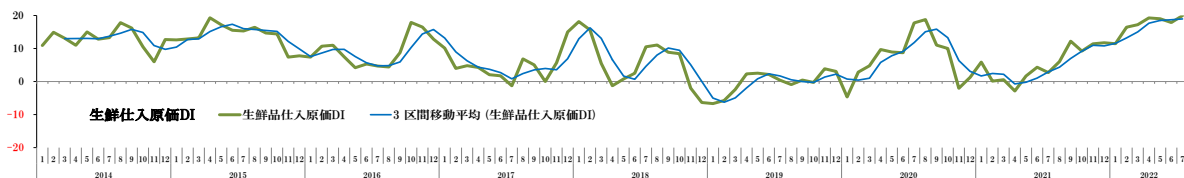
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
来客数 (前月)	14.8	55.5	20.9	8.2	0.5	-19.0
来客数 (当月)	12.9	45.2	26.5	14.2	1.3	-13.5



6. 生鮮仕入原価 DI

前月より小幅に上昇し、二桁プラス圏で高止まり

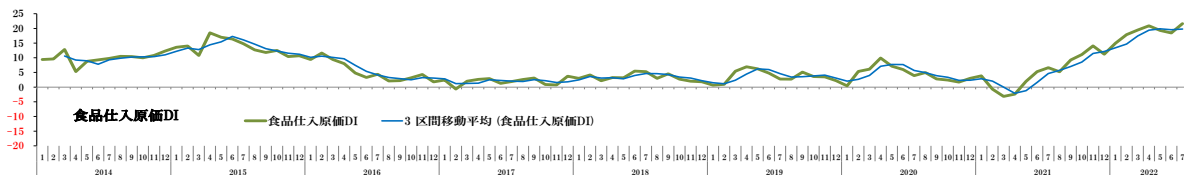
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
生鮮仕入原価 (前月)	1.7	8.0	21.7	54.3	14.3	17.9
生鮮仕入原価 (当月)	0.7	4.7	23.6	56.1	14.9	19.9



7. 食品仕入原価 DI

前月よりさらに上昇、16 か月連続でプラス

回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
食品仕入原価 (前月)	4.0	5.7	17.6	58.0	14.8	18.5
食品仕入原価 (当月)	2.0	4.0	16.1	61.1	16.8	21.6

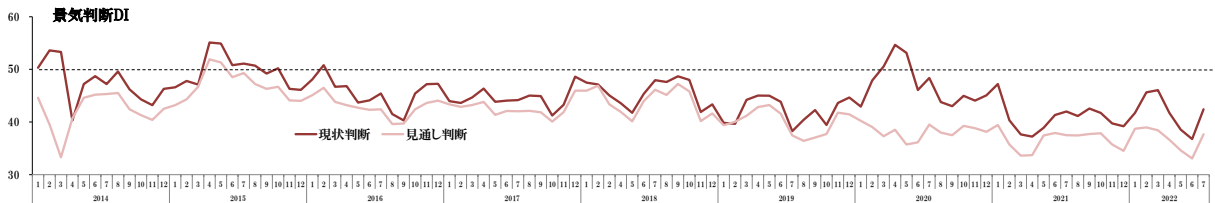


II. 景況感調査 (2014年4月～/周辺地域景況判断 2010年4月～)

1. 中核店舗景況判断 DI

現状判断、見通し判断共に4か月ぶりに改善

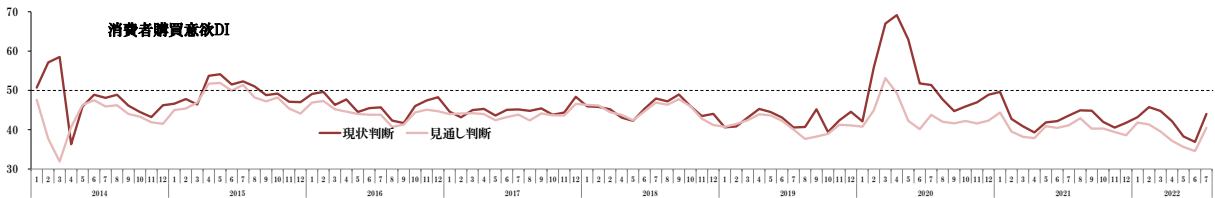
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【現状】景況判断 (前月)	5.5	46.4	43.7	4.4	0.0	36.7
【現状】景況判断 (当月)	3.2	34.8	51.3	10.8	0.0	42.4
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【見通し】景況判断 (前月)	10.4	49.7	37.2	2.7	0.0	33.1
【見通し】景況判断 (当月)	5.1	44.9	44.3	5.7	0.0	37.7



2. 消費者購買意欲 DI

現状判断、見通し判断共に大幅な改善

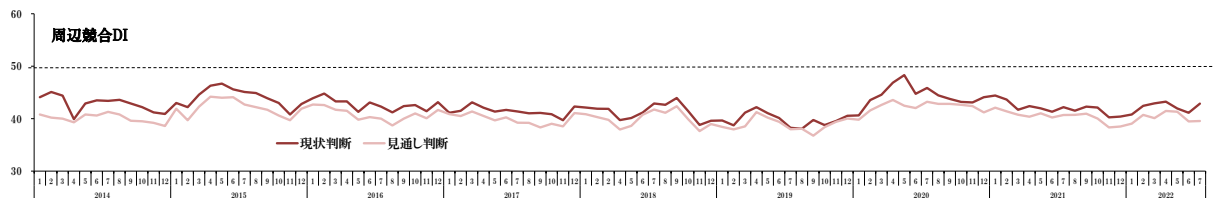
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【現状】購買意欲 (前月)	2.7	51.4	41.5	4.4	0.0	36.9
【現状】購買意欲 (当月)	1.9	32.3	54.4	10.8	0.6	44.0
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【見通し】購買意欲 (前月)	4.9	55.2	36.6	3.3	0.0	34.6
【見通し】購買意欲 (当月)	1.9	42.4	48.1	7.0	0.6	40.5



3. 中核店舗周辺競合状況 DI

現状判断は小幅な改善も、見通し判断は横ばい

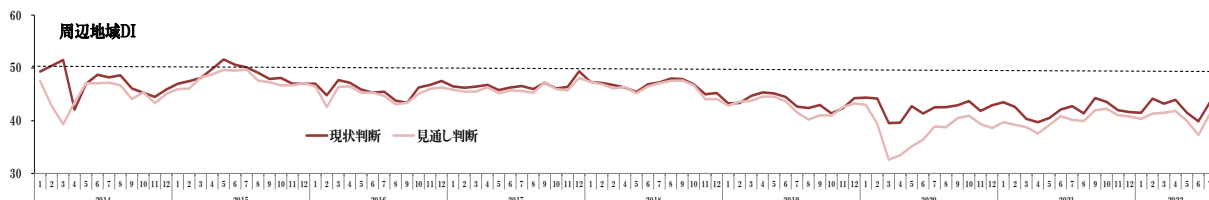
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【現状】競合状況 (前月)	3.8	30.1	63.9	2.2	0.0	41.1
【現状】競合状況 (当月)	3.8	24.1	69.0	3.2	0.0	42.9
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【見通し】競合状況 (前月)	6.0	30.6	62.8	0.5	0.0	39.5
【見通し】競合状況 (当月)	5.1	31.6	63.8	0.0	0.0	39.6



4. 中核店舗周辺地域景気判断DI

現状判断、見通し判断共に大幅な改善

回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【現状】地域景気 (前月)	1.6	39.9	55.7	2.7	0.0	39.9
【現状】地域景気 (当月)	1.3	28.0	66.2	4.5	0.0	43.5
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【見通し】地域景気 (前月)	3.8	44.8	49.7	1.6	0.0	37.3
【見通し】地域景気 (当月)	1.9	33.8	61.8	2.5	0.0	41.2

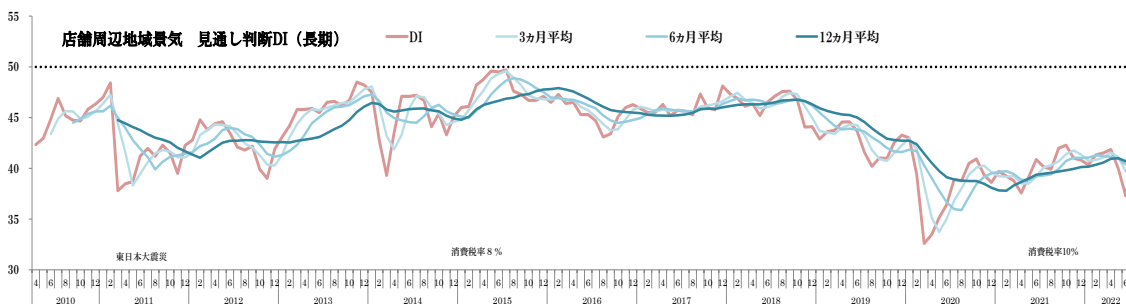
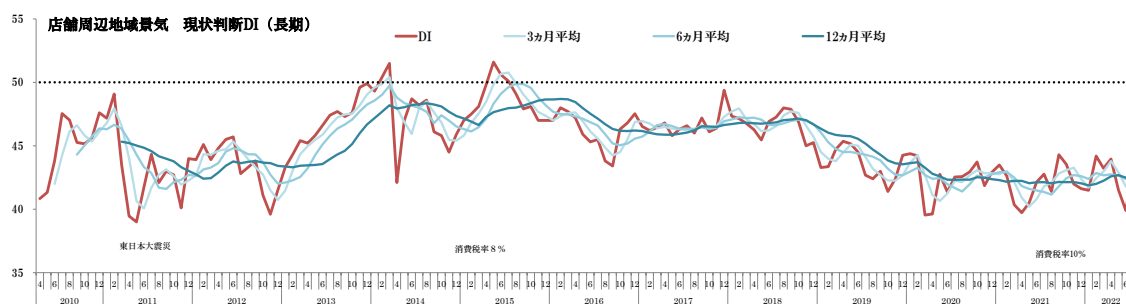


・中核店舗周辺地域景気判断DI 長期傾向 (2010年4月～)

周辺地域景気判断DIは、2011年3月の東日本大震災以降低迷を続けていたが、12年11月から16ヵ月にわたる改善が続き、14年3月には現状判断DIが51.5を記録した。14年4月の消費税率8%への引き上げにより、大幅に悪化したものの、その後徐々に持ち直しをみせ、2015年5月には現状判断DIは51.6にまで達し、調査開始以来の最高値を更新した。

しかしこれをピークに、その後15ヵ月間にわたり悪化傾向が続き16年9月には、現状判断DIは43.4まで低迷した。以後方向感の乏しい推移が続いていたが、18年の後半から悪化傾向が顕著となり、徐々にその水準を切り下げており、19年7月には現状判断DIは42.3まで低下した。

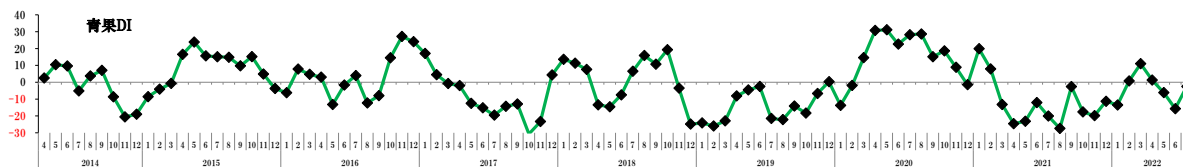
20年2月に大幅に悪化したのが、その後持ち直しの動きが続いた。21年以降は、感染状況により上下に振られる不安定な動きが続いた。22年4月以降悪化が続き、6月にはすべての移動平均線が下向きへと変化したものの、感染が再拡大した7月には大幅な改善をみせた。



Ⅲ. カテゴリー別動向

1. 青果DI：-2.5（やや不調）

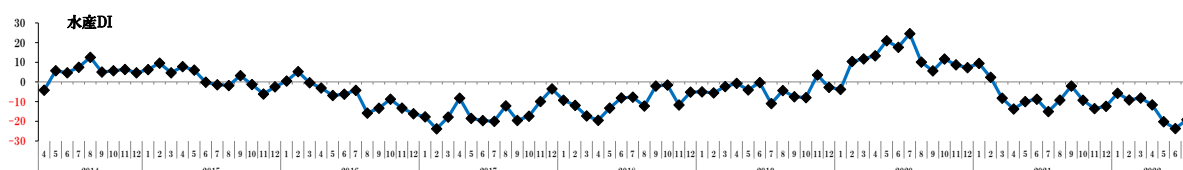
回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
青果 (前月)	15.1	49.4	20.9	12.2	2.3	-15.7
青果 (当月)	8.0	31.3	27.3	29.3	4.0	-2.5



今年は販売数量が安定したタマネギは引き続き高値で好調に推移、一方高騰が続いていたじゃがいもなどの土物類には落ち着きがみられはじめた。キャベツやレタスなどの葉物類は相場安で伸び悩んだものの、サラダ関連野菜のキュウリやトマト、オクラや生姜など涼味野菜が気温上昇により好調に推移した。家飲み需要の回復により枝豆も好調となった。果物類はカットフルーツが好調に推移、国産果物では涼感のあるスイカや桃の動きがよかった。輸入果実は価格高騰の影響で不振となった。

2. 水産DI：-19.2（不調）

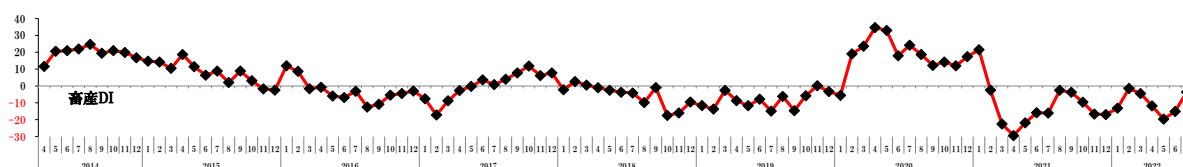
回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
水産 (前月)	28.7	46.6	16.7	6.9	1.1	-23.7
水産 (当月)	21.3	45.3	23.3	8.7	1.3	-19.2



燃料費の高騰や不安定な仕入れ状況、サーモンなど輸入魚価格の上昇が続くなか、販売に苦心する状況が続く。比較的価格の安定している冷凍魚や冷凍加工品は食品を備蓄する動きも背景に好調に推移した。刺身類は気温上昇の影響で持ち帰りを敬遠され伸び悩んだ。今年は土曜日となった土用の丑のうなぎの販売は、気温上昇から好調に推移した店舗がある一方で、相場高騰や競合により苦戦した店舗もみられた。塩干類も値上げが続き点数減、アサリ産地偽装問題の影響もあり貝類は厳しい状況が続いている。

3. 畜産DI：-3.6（やや不調）

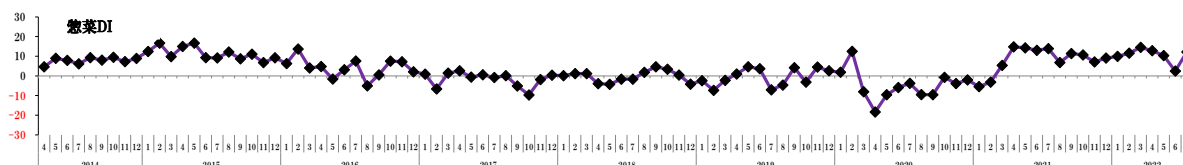
回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
畜産 (前月)	17.4	41.3	27.9	11.0	2.3	-15.1
畜産 (当月)	9.3	32.5	26.5	27.2	4.6	-3.6



相場高騰が続くなかで、日曜日が一日多い曜日巡りの恩恵や、感染再拡大による食品備蓄の動きにより、前月よりやや回復傾向がみられた。牛肉は、気温上昇により国産牛を中心に焼肉用が比較的好調も、輸入牛は価格高騰により不振となっている。豚肉価格も高騰しているが、冷しゃぶなど涼味提案で動きがよかった。比較的価格の安定している鶏肉に需要がシフトしているとのコメントがみられ、好調に推移した店舗が多い。ハムなどの加工肉は備蓄需要回復も、値上げの影響で伸び悩んだ。価格高騰が利益を圧迫しているとの指摘もみられた。

4. 惣菜DI：12.2（好調）

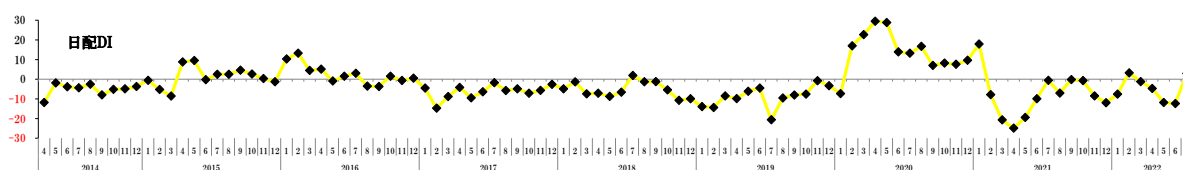
回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
惣菜（前月）	5.2	23.7	32.4	33.5	5.2	2.5
惣菜（当月）	4.1	12.2	27.0	44.6	12.2	12.2



調理油の値上げや、猛暑で家庭での調理を避ける傾向が強まり、天ぷら、唐揚げやコロケなどの揚げ物類、中華惣菜を中心に好調となった。土用の丑は予約販売が好調。気温上昇により、涼味商材が好調に推移した一方で、持ち帰りを敬遠して寿司類が伸び悩んだ。行楽需要が回復する一方、感染再拡大によるイベント中止の影響を受けた店舗もみられた。家飲み需要も回復がみられたが、オリンピック観戦需要が高まった前年には及ばなかった。原材料や資材の値上げが相次ぎ、メニューや量目の変更で対応する状況が続いている。

5. 日配DI：3.0（やや好調）

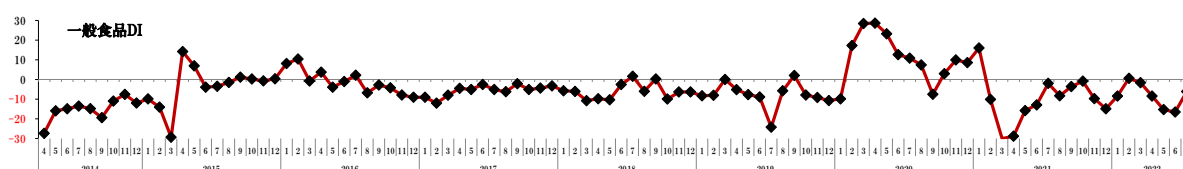
回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
日配（前月）	10.3	46.0	28.7	12.6	2.3	-12.4
日配（当月）	3.3	27.2	29.8	33.8	6.0	3.0



気温上昇によりアイスやチルド飲料をはじめ、チルド麺類、豆腐やこんにやく等の水物など、涼味商材が好調となった。なかでも乳酸菌飲料の動きがよいとのコメントがみられた。報道で感染に備えての食品備蓄が呼びかけられたことを背景に冷凍食品が一段の伸長。値上げのあったパン類も一品単価が上昇し引き続き好調に推移した。キムチなどの発酵食品、チーズやバターなどの乳製品、機能性ヨーグルトには引き続き前年からの反動減がみられた。

6. 一般食品：-6.1（やや不調）

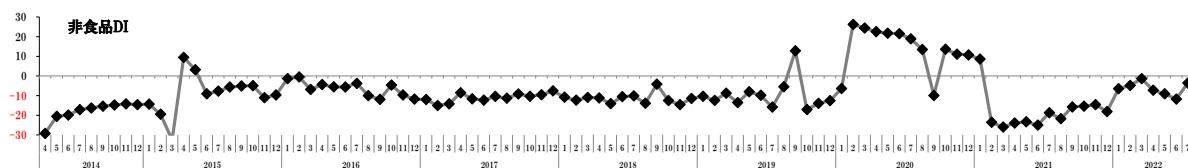
回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
一般食品（前月）	18.3	44.0	25.1	10.9	1.7	-16.6
一般食品（当月）	8.6	35.1	31.8	21.2	3.3	-6.1



高い気温で推移した地域では、飲料や素麺関連などの涼味商材が好調に推移した。特に猛暑にみまわれた期間には熱中症対策商品、スポーツドリンクで欠品が発生した店舗もみられた。全般的に値上げが続いているものの、食品備蓄の動きが再び強まり、乾麺やレトルト食品など保存性の高い商品が好調。米類は相場安が続くが、買上点数は伸びず不調が続いている。値上げのあった油や調味料にも回復がみられた。家飲み需要の高まりがみられ、酒類や珍味などのつまみ類はオリンピック観戦需要のあった前年並みとなった。ドラッグストア等との価格競争激化や、販促が打ちにくいなど相次ぐ値上げの影響を指摘するコメントもみられた。

7. 非食品 DI：-3.5（やや不調）

回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
非食品（前月）	17.6	34.1	30.0	14.1	4.1	-11.8
非食品（当月）	10.1	31.8	30.4	17.6	10.1	-3.5



感染再拡大傾向により、マスクやハンドソープ、除菌関連などの衛生用品が好調に推移した。殺虫剤や日焼け止めなど夏物商品、紙コップや割り箸などの行楽、アウトドア関連も好調に推移した店舗が多かった。猛暑の影響で洗濯洗剤や入浴用品の需要が伸びている。在宅時間の増加による影響もあってか、ティッシュやトイレットペーパー、キッチンペーパーなどの紙製品の販売が回復したとのコメントがみられた。

カテゴリー別 DI による好不調判断

かなり好調：～ 20 好調：20 ～ 10 やや好調：10 ～ 0
 やや不調：0 ～ -10 不調：-10 ～ -20 かなり不調：-20～

2022年8月調査（7月実績）キーワード TOP3

1. 気温上昇による夏物商材好調
2. 感染再拡大による巣ごもり需要の回復
3. 相次ぐ値上げ

（参考）2021年8月調査（7月実績）キーワード TOP3

1. 気温の上昇による季節商材好調と調理敬遠
2. 青果相場安、畜産相場高
3. 前年からの反動とオリンピック観戦需要

スーパーマーケット景気動向調査 集計数

7月実績速報版 154社
 6月実績確報版 179社

スーパーマーケット景気動向調査に関するお問い合わせ

スーパーマーケット統計事務局 tokei@super.or.jp